



1日開催の四国新聞移動編集局「わがまち未来会議 in 坂出」の出席者は次の通り。

(順不同、1面参照)

太田広美さん(さかいで子育て支援センター・まろっ子ひろば統括マネージャー) 北山定男さん(王越町共に生きるまちづくり推進協議会会長) 木下睦雄さん(木下農園取締役) さとうゆづりさん(彫刻家) 新谷孝幸さん(坂出青年会議所理事長) 高田正広さん(駅近さかいで薬市薬座座長) 谷本恵美さん(女性消防分団チーフ) ムコスモス分団長) 福岡広幸さん(府中ほっころなび事務局長) 吉原良一さん(吉原食糧社長) 唐渡拓次さん(坂出商高写真部3年) 水川乃亜さん(坂出一高食物科3年)

「核」定め 担い手連携を 11人、坂出の活性化探る

【ご】に開催し、今回が7回

まわりの将来像を住民と共に考える四国新聞移動編集局「わがまち未来会議 in 坂出」が1日、坂出市本町の市民ふれあい会館で開かれた。商工業や観光、子育て支援など各分野で活躍する市民に高校生を加えた11人が、市街地再生や歴史・文化・芸術を生かしたまちづくりの方策などを議論。活性化の「核」を定め、多彩な催しとその担い手が連携する重要性を提言した。(22面)出席者一覧、16日付の特集で詳報)



目。会議では中心市街地の再生をテーマの一つに掲げて意見交換。▽坂出は昼夜間人口比率が四国の市町村で最も高い「働くまち」▽丸亀城のような「核」がない。といった特徴を踏まえた上で、出席者からは「JR坂出駅の乗降客数は四国有数。多くの人が行き来する駅が核になるはず」「都内のように、高架下に飲食やおしゃれを楽しめる店舗があったらいい」との声が上がった。郊外でまちおこしやまち歩きに取り組む市民は「地区の人口は減っているが、史跡や自然などをPRして交流人口を増やす」「府中湖での東京五輪事前合宿を契機に、外国人向けの民泊を地域に設けたい」と目標を語った。

一方、課題は発信力の弱さ。「市の子育て支援策は

充実しているのにアピールが足りない」との意見や、「城山から見下ろす夕暮れ時の街の美しさ」「ミカン狩りしながら眺める瀬戸大橋」といった魅力が知られていないとの指摘があった。また、「活動の中心となる人材が足りない」「さまざまなイベントがあるが、担い手同士のつながりがもっと必要」と、人材の育成や連携を求める声も上がった。

区の行事、各分野で活躍する人々がコラボレーションできる土壌をつくるのが行政の役割。今日の意見を参考に、市民参加型の施策を実施していきたい」と総括した。



まちづくりの方策などを議論する四国新聞移動編集局「わがまち未来会議 in 坂出」=坂出市本町、市民ふれあい会館

四国新聞社は昨春から23年ぶりに移動編集局を企画・実施している。県内市町